

イエスの名声の始まり  
コナースビル インディアナ州 アメリカ合衆国  
1953年06月05日

1 祈りの間、しばらく立ったままでいましょう。

天の父よ、私たちは今夜も再びこうして集まり、あなたに仕え、私たちの愛を表し、あなたという偉大な創造主を賛美できる、この栄光に満ちた特権を感謝いたします。

ここにおられる一人ひとりの魂を感謝し、あの日に一人も失われることのないように祈ります。どうか皆が救われますように。

父よ、今夜この集会を聖霊が支配し、御自身の力をこの会衆に現してください。

主よ、病の人々が今夜癒されますように。彼らがカルバリーを見上げ、そこで自分のために捧げられた完全な犠牲を見出すことができますように。

それは、神が世界に示された愛であり、病める者への御心の現れです。

神よ、どうか私たちが今夜それを退けることはありませんように。

それに目を向け、信じることができますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2 [テープの切れ目]

……主イエス・キリストへの私の愛と感謝を、あなたがたに向けて表したいと思います。そして、この夜が私たち一人ひとりにとって大きな意味を持ち、神の愛がすべての者に及びますように祈ります。

さて、昨夜は証しをお話しました。

残念ながら今夜でバクスター兄弟が私たちを離れます。

[テープの切れ目]

……みことばについて申し上げます。神は御言葉を祝福されます。主は必ず御言葉を祝福されるお方です。

そこで今、マタイによる福音書第4章23節——イエスの名声の始まりの場面を読みます。

イエスはガリラヤ全域を巡り、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、人々のあらゆる病と患いを癒された。

そしてその評判はシリア全土に広まり、人々はさまざまな病や苦しみに悩む者、悪霊につかれた者、狂気の者、そして中風の者を連れて来たが、イエスは彼らを癒された。

3 そして、いつものように私の主題はこうです。

「イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わる事がない」。

主の今の御姿勢は、あの時と少しも変わっていません。

私たちの集会には毎晩、新しく来られる方々がいます。

その初めの頃は、夜も少し肌寒く、人々が落ち着いて神の癒しの働きを理解できるよう、できる限り説明を重ねました。

この数夜は、主がなさった多くの証しをお分かちするために時間を取りました。

もし起こった出来事の百分の一でも話そうとしたら、会は何週間も、あるいは何ヶ月にも及ぶでしょう。

主は「わたしのする業を、あなたがたも行い、さらに大きなことをするであろう」と言われました。

それは「質」においてではなく「量」においてです。

なぜなら、質においてイエス以上のことを成す者は誰もいないからです。

主は自然を静め、死人をよみがえらせられました。

そして今も、まったく同じお方として働いておられるのです。

4  いつか主が許されるなら、スウェーデン——いや、正確にはフィンランドで死からよみがえった少年の出来事をお話したいと思います。

これは私の宣教活動の中で見た最も驚くべきことの一つです。もちろん、それは幻によって示されたものでした。

昨夜は、インディアナ州ミルタウンのジョージ・カーター夫人が結核から癒された話をしました。

当時、ミルタウンのバプテスト教会で最初のリバイバルを行ったとき、元ナザレン教会の会員で、信仰を失っていたホール牧師がいました。

彼はキリスト教全体に対して心を閉ざしていましたが、集会の中で回心し、今ではその教会の牧師を務めています。

私がカリフォルニアから戻ったのは、アップショー議員が癒された時のことでした。

もしあなたがカーター夫人に手紙を書きたいなら、彼女は医師の証明書を含め、喜んで詳細を送ってくれるでしょう。

それらはすべて正式な医師の記録であり、批判にさらされても、神がご自身を変わらぬお方として証明されてきたのです。

5  おそらく皆さんの中には、オレゴンで狂気の男が壇上に駆け上がり、私の命を奪おうとした夜のことを読まれた方もいるでしょう。

「ブラナム兄弟、怖くありませんか？」と聞かれました。

私はこう答えました——

「いいえ、まったく恐れはありませんでした。イエスが共におられる限り、そして主がこれを行えと命じられ、私とその御心の中にいる限り、恐れる理由は何もありません。」

主の導きの中にあり、主の御言葉に従っているなら、恐れるものは何もありません。

完全な愛は恐れを締め出します。神のうちには恐れはありません。愛が恐れを取り除くのです。

私は神の癒しを信じています。

今は神の偉大な働きを拒んでいる教会も、やがて悟るでしょう。

神の癒しの力は、どの時代を通して変わらぬものであることを。

ただ、人々が違った教えを受けてきただけなのです。

「癒しはもう終わったこと」と教えられてきた——それが信仰を妨げているのです。

6  ここにいるアフリカから来た友の皆さん——

私たちがアフリカに着いたとき、多くの宣教師が既にそこで働き、パンフレットを配り、イエスについて語っていました。

しかし、癒しについて問うと、こう答えたのです。

「それらのことはもう終わった。今は行われぬ。」

けれども、砂漠の太鼓さえも、イエスが癒し主であると聞いて勝利の音を打ち鳴らしました。

その結果、一日で三万人もの人々がキリストに立ち帰ったのです。

彼らは仕えたいと願う神の力を見たのです。

ところが宣教師たちは「救い以外の力はもうない」と教えていました。

しかし、主が足の不自由な人をまっすぐにし、盲人に視力を与え、聾者に聴力を与え、口のきけない者を語らせるのを見たとき、彼らは地にひれ伏し、神を賛美しました。

ダーバンから届いた報告によると、その集会の直後、真実な回心が起こり、一つの部族から七台分のトラックいっぱい銃や時計など盗まれた物が自発的に返還されたそうです。

彼らは「もう過去の罪と関わりたくない」と言ってそれらを手放したのです。

7 帰国後、自分の所属する教会の牧師たちの集まりで立ち上がったとき、何人かの神学博士が言いました。

「ブラナム兄弟、今夜あなたに話してもらいたい。」

私は立ち上がり、こう言えることを光栄に思いました。

「兄弟たち……」

私を按手し任命した牧師もそこにいました。

私は言いました。

「あなたは私の見たものを“悪夢”と言いましたね。

しかし私たちは百年間、宣教師をアフリカに送り続けてきました。

ところが行ってみると、人々は泥の偶像を抱きながら自分をクリスチャンと呼んでいたのです。

あなたが“狂信”や“悪魔の業”と呼ぶその働きが、五分間で百年分の宣教より多くの魂をキリストに導いたのです。

しかも、私たちが費やした何百万ドルもの宣教費をも超えて。」

兄弟姉妹よ、教会は神の計画に戻るべきです。

そうすれば教会は本来の力を取り戻します。

寄付のための晩餐会や行事——それは神の方法ではありません。

神が求めておられるのは忠実な捧げ物と十分の一です。

それが神のプログラムです。主は捧げる者を祝福すると約束されました。

今日、私たちは聖霊のバプテスマの代わりに神学を代用し、力の代わりに人数を重視しています。

しかし、それは決して神の力に取って代わることはできません。

神こそが力です。全能の神、すべての力の源なるお方です。

8 先ほどお話ししたバプテストの牧師、ウィリアム・H・ホール師——インディアナ州ミルタウンのミルタウン・バプテスト教会の牧師で、長年私の親友でした。

彼は私の集会で回心し、それ以来、神の癒しを強く信じるようになりました。

私がカリフォルニアで、アップショー議員らが癒されたことを語っていた頃、家に戻ると、妻(今夜ここにいます)がこう言いました。

「ホール兄弟が、がんで倒れています。もう助からないかもしれません。」

あの勇敢な神の僕が死に瀕していると聞いて、どんなに胸が痛んだことでしょう。

私は「彼の主治医は誰だい?」と尋ねました。

妻は「たしかデイルマン先生だと思おう」と答えました。

デイルマン博士は私の親しい友人です。

私は彼が大好きでした。

彼の元を訪ねようとしたのですが、その日は不在でした。

彼はインディアナ州コリドンの医師です。

9 それで私はホール師のもとを訪ねました。

彼はベッドに横たわり、ここ4~5週間で30キロ以上も体重を失っていました。

肌はかぼちゃのように黄色く変色していました。

「どうされたのですか?」と尋ねると、彼は言いました。

「ブラナム兄弟、私はがんなんです。肝臓にできました。神が助けてくださらなければ、私はもう終わりです。」

私は彼が大好きでした。

そこでひざまずき、心から癒しの祈りを捧げました。

しかし、帰宅して翌朝電話をすると、容体はさらに悪化していました。

その後、ニューアルバニーの聖エドワード病院でX線を撮った専門医——マッカーリー博士——が診断を下しました。

私はデイルマン博士に連絡を取り、「どうなんですか」と尋ねました。

彼は言いました。

「ブラナム兄弟、肝臓にがんがあります。もう手術はできません。

あまりにも進行しています。残念ながら助かりません。」

私は「それを聞くのは本当に辛い」と言いました。

博士は「彼は立派な人でしたよ」と答えました。

10 その日も彼を見舞いましたが、容体は極めて悪く、今にも息を引き取るような状態でした。

私は再び祈りを捧げました。

その夜、妻と義母、そして秘書のコックス兄弟と共に、最後の見舞いに行きました。

彼はもうほとんど話すこともできませんでした。

それでも私たちは皆で賛美歌を歌い、祈りをささげて帰りました。

帰り道、ホール夫人が言いました。

「ブラナム兄弟、何かできることはないのですか?」

私は答えました。

「シスター、私にできるのは祈ることだけです。あなたと同じように。」

彼女はさらに尋ねました。

「他にお医者さまはいませんか？」

私は言いました。

「医者というのは、誰でもそうですが、信頼できるかどうかが大切です。信頼がなければ頼む意味がありません。」

「どなたかお勧めは？」と彼女。

私は言いました。

「この町に昔からの友人がいます。学校時代からの仲で、今ではこの国でも有数の専門医です。サム・アデア博士です。」

私たちは25～30年来の親友です。

彼は最近、私の働きについてレイビル医師会に推薦文を書いてくれました。

もし私自身が書いたとしても、これほど立派な内容にはならなかったでしょう。

その手紙は今、多くの医師の間に広く配布されています。

11 そこで私は言いました。

「アデア博士に診てもらえたらと思います。」

彼女は「お願いします」と答えました。

私は博士に電話をかけ、事情を説明しました。

彼は言いました。

「ブラナム兄弟、私にできることといえば、その方を病院に入れてX線を撮ることくらいです。もしすでに他の医師が撮っているなら、私はその写真を読んで判断しましょう。戻ったら結果をお伝えします。」

私は「それだけでも夫人の励ましになるでしょう」と言いました。

博士は病院へ行き、X線を確認し、戻ってきました。

彼は私を「ビリー」と呼び、私は彼を「サム」と呼び合う仲です。

彼は言いました。

「ビリー、残念だが彼は助からない。肝臓がんだ。もうどうにもならない。」

私は「他の方法や医師の助けはないでしょうか」と尋ねました。

博士は言いました。

「レイビルにアベル博士という専門医がいる。彼に送ることはできるが、できるのはX線を撮ることだけだ。ベッドから起こさなければならぬが、今は安らかに過ごさせてやる方がいい。」

12 私はホール夫人のところへ行って尋ねました。

すると彼女は言いました。

「まあ、もし何かできることがあるなら、彼を連れて行ってください、ブラナム兄弟。」

それで救急車が来て、彼を迎えに行き、レイビルの医者のもとへ連れて行きました。

やがて戻ってきましたが、もちろん医者には何も告げません。

結果は医者同士で伝えられました。

その医者がサム・アデア博士に電話して言いました。

「もう手の施しようがない。終わりです。」

それを受けて、アデア博士が私に電話をしてきました。

「ビリー、君の友人ホール牧師は……」

そして博士はこう言いました。

「彼はあと4日で“船を降りる”だろう。4日以内にこの世を去る。もうそれ以上はもたない。これが現実だ。」

私は言いました。

「なんてことだ、アデア博士、それを聞くのは辛いです。」

博士は静かに答えました。

「そうだね。私たち皆、同じ気持ちだ。」

私は尋ねました。

「医学的に、何か他の方法はないのですか？」

博士は首を振り、言いました。

「ビリー、何もない。肝臓を取り出しては彼は生きられない。もうどうしようもない。だが、彼は牧師だろう？なら、天国に行く準備はできているはずだ。」

私は言いました。

「ええ、でも彼はまだ54か55歳ですよ。まだ福音を語れるし、できることがたくさんある。こんなに若くして去るのを見るのは本当に辛い。」

そして付け加えました。

「けれども彼は本物のクリスチャンだから、この世から次の世界へまっすぐに踏み出すでしょう。」

13 この中で、インディアナ州ミルタウンのウィル・ホール牧師を知っている方はいらっしゃいますか？

……そうですね。何人かの方はご存じですね。彼は本当に立派な人です。

私はアデア博士に言いました。

「では、彼は死ぬというのですね。」

博士は言いました。

「間違いありません、ビリー。癌が広がって、まるで大きなクモが肝臓に巣を作ったように見えます。すでに彼の身体を食い尽くしています。4日以内に亡くなるでしょう。」

私は言いました。

「わかりました、博士。ありがとう。」

それから私はホール夫人を呼び出し、言いました。

「ホール姉妹、こんなことを言いたくはないのですが……アデア博士によれば、ルイビルの医者が“4日以内に亡くなるだろう”と言ったそうです。」

彼女は泣き崩れ、私の肩に寄りかかりました。まるで母のようでした。

「ブラナム兄弟、あなたにできることは何もないのですか?」と彼女は言いました。

私は答えました。

「ホール姉妹、私にできるのは祈ることだけです。医者にはできる限りのことをしました。あとは神の御手に委ねるしかありません。もし時が来たのなら、私たちの愛する兄弟は栄光のベールを通して天の御国へ行くでしょう。それがすべてです。」

その夜、私は家族を連れて再び見舞いに行きました。

ホール兄弟はかろうじて言葉を発することができるほど弱っていました。

14 私はケンタッキー州の出身です。

このあたりでリス狩りをする人はいますか?……おお、何人かいますね。

ちょっと安心しました。自分が“帰ってきた”気がします(笑)。

私はリス狩りが好きなんです。

この辺りにも良い森がありますね。

さて、翌朝、私はペンシルベニア州のエリーに行かなければなりませんでした。

それから戻って海外に行く予定でした。バクスター兄弟や仲間たちと約6週間の旅です。

家には人が押し寄せて、私はカリフォルニアから戻ったばかりで疲れ切っていました。

バクスター兄弟はすでにバンクーバーの家族のもとに戻っており、オハイオ州トレドで私と合流し、そこからエリーへ向かう予定でした。

翌朝、私は妻に言いました。

「ハニー、ちょっと森に行ってくるよ。眠すぎてリス狩りになるか分からないけどね。」

家を片付けたのが夜の12時すぎ。

私は小さな古い.22口径のライフルを用意し、古いオーバーオールを巻いて隅に置きました。

そして目覚ましを3時にセットして、「森で少し過ごしてから昼寝でもしよう」と思っていたのです。

15 午前3時ごろ、アラームが鳴り、私は起きました。

妻はぐっすり眠っていて、音にもまったく動じませんでした。

私は静かに起き上がり、オーバーオールを着て書斎に行き、窓の外を見ました。

外には誰もいません。

「よし、大丈夫そうだな」と思い、出かける支度を始めました。

ライフルを持って浴室の方へ歩いて行ったとき、ふと壁のそばに何かがぶら下がっているのが見えました。

それは、節くれだった古い小さなリンゴのようでした。虫食いで酸っぱそうな、見るからに見栄えの悪いリンゴが宙に浮いているように見えたのです。

「おかしいな、メデ(妻)はなんでこんなものを壁に掛けたんだ?」と思いました。

でもよく見ると、それは壁に掛かっているのではなく、空中に浮かんでいたのです。

16 そのとき、私はすぐに悟りました。——これは天から来たものだ、と。

ライフルを隅に置き、帽子を脱いで床に投げ、ひざまずきました。

「主よ、あなたのしもべに何を示されたいのですか？」と祈りました。

すると、もうひとつ、そしてまたひとつと、小さなリングが降りてきて、全部で5つになりました。

やがて、その上から大きな美しいリングが降りてきました。

黄色の地に赤い筋が入り、見るからに健康そうな大きなリングでした。

それが5つの小さなリングをひとつ、またひとつと飲み込みました——1つ、2つ、3つ、4つ、5つ。

そしてその大きなリングが消えると、そのあった場所に何か“ふうー”と風のように漂いました。

私は静まり返って祈りました。

「主よ、あなたのしもべは何をすべきでしょうか？」

すると主は言われました。

「立ち上がってホール兄弟のもとに行き、『主はこう言われる——彼は死なず、生きるであろう』と告げなさい。」

その日、リス狩りはやめました。

私はすぐにオーバーオールを脱ぎ、妻を起こしました。

「ハニー、いまビジョンを見た。ホール兄弟は生きる！」

妻は驚いて言いました。「本当に？」

「本当だ。神がそう言われたんだ。誰にも止められない。」

17 それで私はすぐ着替えて車に乗り、ホール兄弟の家へ行きました。

彼の妻——ホール姉妹がドアのところに立っていて、泣いていました。

私は言いました。

「姉妹、泣かないでください。主が私にお語りになりました。

“彼は死なない。生きるであろう。”と。」

彼女は涙をぬぐいながら私を見て言いました。

「ブラナム兄弟、本当に主がそう言われたのですか？」

私は答えました。

「はい、確かに主がそうお語りになりました。」

その時、彼女の顔に光が戻りました。

「ありがとうございます、兄弟……ああ、神に感謝します。」

私は言いました。

「さあ、彼のところへ行きましょう。」

私たちは一緒に部屋に入りました。

ホール兄弟はベッドに横たわり、非常に衰弱していました。

まるですでに息が絶えたかのようなようでした。

私は彼のそばに近づき、手を取って言いました。

「兄弟、ブラナムです。私の声が聞こえますか？」

彼はうっすらと目を開けて、かすかにうなずきました。

私はひざまずき、祈りました。

「主よ、あなたが今朝私に語られた通り、

『彼は死なない。生きるであろう。』と仰せになりました。

あなたは変わらないお方です。

どうかあなたの御名のために、この兄弟を癒してください。」

祈り終わった瞬間、部屋の空気が静かに変わりました。

まるで柔らかな風がそっと吹いたようでした。

ホール兄弟の唇がかすかに動き、弱々しくこう言いました。

「アーメン……」

18 そこへ、町の元判事が来ていました。

彼の妹がホール兄弟の兄と結婚していたので、彼女もその場にいました。

彼女は私にこう言いました。

「まあ、あんなふうに癌が体にあるのに、生きられるはずがないでしょう？」

私は答えました。

「私にも分かりません。けれども、神が『彼は生きる』と言われたのです。それで十分です。

神がそう語られたなら、それは必ずその通りになります。」

彼女は言いました。

「あなたは本気で、彼が生きると信じているのですか？」

私は言いました。

「はい、奥様。そうです。」

そう言って私は外へ出ました。心は喜びで満たされていました。

外にはコックス兄弟たちもいて、皆で車に乗りました。

その時、病室の中では――

ホール兄弟がまだ弱々しい手を上げ、涙を流しながら言っていました。

「ありがとう、主イエスよ。息のある限り、私はあなたの御言葉を宣べ伝えます！」

何も起こっていないうちから、彼は主を賛美していたのです。

けれども、それで十分でした――神がすでにそう語られたのですから。

19 それから私は家に戻り、電話を取りました。

「サム博士ですか？」――それはジェファーソンビルのサム・アデア博士です。大きなクリニックを持つ方です。

博士が出て、「はい」と答えました。

私は言いました。

「先日、あなたが“あと4日で亡くなるだろう”と言われたホール牧師のことを覚えていますか？」

博士は言いました。

「ええ、もちろん。彼は助かりません。」

私は静かに言いました。

「いいえ、博士。彼は生きます。」

博士は驚いて言いました。

「ビリー、どうやって？肝臓に癌があるんですよ。」

私は答えました。

「分かりません。でも、神が私にビジョンで示してくださいました。」

博士、あなたは何度そのようなことを見てきましたか？」

博士は少し笑いながら言いました。

「ビリー、私は君の言葉を疑いたくはないが……年寄りの医者としては、実際に見るまでは信じがたいね。」

私は言いました。

「博士、あなたはそれを見るまで、老衰では亡くなりませんよ。」

博士は笑って、「それはいったいいつ起こるんだい？」と聞きました。

私は言いました。

「分かりません。」

博士はさらに聞きました。

「今もう癒されたのか？」

私は言いました。

「分かりません。でも、神は“この癌で死なない”と語られました。」

だから、彼は死にません。」

博士は言いました。

「それをこの目で見なければならんな。」

私は微笑んで答えました。

「ええ、博士、あなたはそれを見るでしょう。」

博士は言いました。

「いつ出発するんだい？」

私は答えました。

「明日です。」

20 私は6週間の旅に出て、帰国しました。

その夜、ジェファーソンビルの高校の体育館で集会が開かれました。

会場の中には約4,000人、外にも同じくらいの人々が集まっていました。

翌日はニューヨークへ向かい、そこからアフリカに行く予定でした。

午後遅くに到着し、息子たちと共に会場に入りました。

あまりにも人が多く、通りまで人々であふれ、祈りのカードを急いで配らなければならないほどでした。

壇上に上がると、観客席の上の方にコリドンのデイルマン博士の姿が見えました。

「お会いできてうれしいです、デイルマン博士」と言うと、博士は軽く頭を下げました。

ふと別の方を見ると、ジェファーソンビルのボールドウィン博士がいました。

その妻は、以前私の家で喘息から癒された方でした。

博士はその時、私を抱きしめて泣きながら言ったのです。

「ビリー、彼女はすっかり元通りになったよ!」

私は言いました。

「お会いできてうれしいです、ボールドウィン博士。」

彼は微笑んで頷きました。

そして後ろを見ると――

アデア博士が戸口に立っていました。中に入りきれなかったのです。

「お会いできてうれしいです、アデア博士。」と私は言いました。

その時、ふと左側を見ると――そこにホール兄弟が座っていました。

私は声を上げました。

「デイルマン博士、あの患者のホールさんを覚えていますか？」

博士は「はい、覚えています」と答えました。

「アデア博士、あなたも覚えていますね？私が“彼は生きる”と言ったことを。」

博士は「ええ、覚えています」と言いました。

「あなたは“見なければ信じられない”と言いましたね？」

私は言いました。

「では、ホール兄弟、証していただけますか？」

ホール兄弟は立ち上がり、声を張り上げて言いました。

「ハレルヤ！ 証しますとも！ 私は35ポンドも体重が増えました!」

その瞬間、会場が揺れるような賛美の波に包まれました。

後に医師たちが彼を病院に連れて行き、X線検査をしましたが――

肝臓には癌の影すら見つかりませんでした。

彼の体重は185ポンド。完全な健康体でした。

それから2年経ちましたが、  
ホール兄弟は今もインディアナ州ミルタウンで元気に暮らしています。  
信じられないなら、彼に電話して聞いてください——費用は私が持ちます。  
あのジョージ・カーター姉妹と共に、今日も主を賛美して生きています。

21 ところで——もしあなたがアデア博士に電話をすることがあれば、こう尋ねてみてください。

「数日前のあの出来事を、まだ覚えておられますか?」と。  
博士がこれを公の場で語られるのを喜ばれるかどうか分かりませんが、  
彼は本当に立派な方です。

どうか覚えておいてください——  
医者や批判する人々は、自分の口に気をつけなければなりません。  
多くの医師たちは真面目で、信仰深いクリスチャンです。  
私がアフリカに赴いた時のことです。

着いて一晩が明けた翌朝、南アフリカ医師会から連絡がありました。  
彼らは私に友情の右手を差し出し、こう言いました。

「南アフリカのすべての病院は、あなたに開かれています。  
これは真に神の癒しのわざです。私たちはそのように信じます。」  
私は感謝して言いました。

「ありがとうございます。神の栄光のためにそう用いられることを祈ります。」  
彼らはその後、私を朝食に招いてくれました。

けれども、私は言いました。  
「今日は食事を控えさせてください。主の御霊が働かれるのを待ちたいのです。」

22 しばらくして、アデア博士が私の家にやって来ました。

妻が部屋に入ってきて言いました。  
「ビリー、アデア博士がポーチにいらして、お会いしたいそうです。」  
私はちょうど他の人々と話していましたが、すぐに言いました。  
「博士を応接室にお通しして下さい。」

心の中で——これは何か特別なことに違いないと感じました。  
部屋に入ると、博士は少し緊張した面持ちで言いました。  
「ビリー、ひとつ相談したいことがあるんだ。」

彼はこう続けました。  
「聖書には、人々が主のしもべのもとに相談に来て、助言を受けたとありますね。

私もあなたに尋ねたいことがある。」

そして彼は語り始めました。

「私はこの町に診療所を建てたいと願っているのですが、どう思われますか？」

私は答えました。

「ええ、博士。どの町にも、良い診療所は必要です。」

彼はさらに言いました。

「では、良い医者も必要でしょうか？」

私は笑って答えました。

「もちろんです、博士。あなたのような方がその務めに最もふさわしいでしょう。」

博士は少しうつむいて言いました。

「私の患者のほとんどは貧しい人たちです、ビリー。

私は思うように教会には行けませんが、

手術が必要な人が来れば、私は彼らを拒みません。

支払いができない人にも、手術をしてあげます。

それが私の神への奉仕のつもりです。」

私は微笑みながら言いました。

「博士、それは本当に尊い心です。

けれども、神に仕える正しい道は“良い行い”ではなく、新しく生まれることです。

神の霊によって生まれ変わるとき、人は初めて真に主に仕えることができるのです。」

23 博士は静かに頷き、それからこう言いました。

「ビリー、実はもうひとつ、あなたに相談したいことがある。」

「私はこの町に診療所を建てたいのだが、

希望している土地を所有している女性が、どうしても譲ってくれないのだ。」

私は言いました。

「博士、それでは祈りましょう。」

私たちは一緒にひざまずき、主に祈りを捧げました。

博士は言いました。

「この町には、他に建てられるような場所がないのです。」

その土地は街の中でも治安の悪い地区にあり、

私にも「そこは相応しくない」と感じられました。

祈っているうちに、幻が開かれました。

私はもうひとつの場所——ウォール通りとマーケット通りの角にある区画を見たのです。

そこに赤レンガの診療所が立っているのが見えました。

祈りを終えて私は言いました。

「博士、あの場所のことはもう忘れましょう。」

ウォール通りとメープル通りの角にある大きな土地があります。

それが町の最も良い場所です。主はそこをあなたに与えられます。」

博士は驚いて言いました。

「ビリー、それは無理だよ。あの土地は今、法廷で争われていて、

あと25年間は誰も触れられないんだ。

相続権がボストンの方の一族にあつて、

完全に凍結されている。」

私は静かに言いました。

「博士、主が今、私にお語りになりました。

あの土地はあなたのものになります。

そしてそこに、赤レンガの診療所が建ちます。」

博士は言いました。

「息子よ、どうしてそんなことが起こるといふのだ？」

私は答えました。

「分かりません。でも、主がそう言われたのです。」

博士はなおも首を振って言いました。

「私は二日前にも裁判所でその件を確認したばかりだ。

もうどうにもできないんだ。」

私は言いました。

「博士、私と議論しないでください。

ただ、主が語られたことを信じてください。

主はあなたにその土地をお与えになります。」

24 翌朝、電話が鳴りました。

アデア博士の声が聞こえました。

「ビリー、私は寒さで凍えそうだ！」

私は尋ねました。「どうされたんですか？」

彼は言いました。

「寒気が全身を走っている。昨夜、ボストンで会議が開かれ、あの土地が売りに出されたんだ。

そして今朝、私はすでにそれを買った！」

それから八か月ほど経ちました。

その場所には今、立派な赤レンガの診療所が建っています。

まさに主が示してくださったとおりに。

一昨日、私はそこを訪ね、博士とその話を改めて振り返りました。

博士は笑顔でこう言いました。

「ビリー、私はこの話を、ここを訪れる何千人という人々に語ってきたよ。

あの夜、神が私にしてくださったことをね。」

25 どうか、真心をもって神のもとに来てください。

何も疑わず、ただ神を信じなさい。

神が示される時、神は必ずそのとおりに行われます。

神が語られたことに、神ご自身が責任を負われるのです。

さて、クリスチャンの皆さん。

まず第一に、これは神の御言葉です。

この御言葉以外の基盤の上に築かれたどんな働きも、真のものではありません。

神の御言葉——それが第一であり、土台です。

しかし神は、ご自分のしもべたちを通して、賜物をもって語られることがあります。

それを信じますか？

神が語られたことを、私が証してきたように信じるなら、

それもまた神の御言葉の一部なのです。

もし神があなたに「これをしなさい」と示されるなら、すぐに従ってください。

もし従わなければ、それは御言葉に従わないのと同じことです。

主が言われました。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのもとに来なさい。

わたしがあなたに安息を与えよう。」

それでも来なければ、その御言葉はあなたに何の益ももたらしません。

主は招いてくださったのに、あなたが来なかったからです。

ですから今夜、聖霊が人々の間を動いておられるこの時に、

私は主イエスの御名によってあなたに願います。

心から主を信じなさい。

もしイエスが今夜ここにおられるなら、

ガリラヤの岸辺でも、エルサレムでも、カペナウムでもなされたのと同じ御業を、この場でもなさるでしょう。

主は今も変わられません。

昨日も、今日も、いつまでも変わらないのです。

26 ここで初めての方々にもう一度申し上げます。

イエスご自身は「神の癒し手」とであると主張されたことはありません。

この地上に、神の癒し手と名乗ることができる人はいません。

癒し主は神おひとりだけです。

イエスはこう言われました。

「御子は自分からは何もできません。

わたしのうちにおられる父が、そのわざをなさるのです。」

イエスは多くの病人や盲人、足のなえた人々の中を通られましたが、

すべての人を癒されたわけではありません。

ベテスダの池では、数えきれないほどの病人が水の動きを待っていましたが、

イエスはその中の一人だけを癒され、そこを去られました。

なぜでしょうか？

主はこう言われました。

「父がしておられることを見なければ、

わたしは何もすることができない。」(ヨハネ5:19)

奇跡は人間の意志で起こるのではなく、

神の御心によってのみ起こるのです。

神は幻を示し、しもべに命じ、導かれます。

ギデオンの時代も、エリヤの時代も、同じでした。

27 あるとき、私のマネージャーの一人がこう言いました。

新聞が私の働きを非常に批判的に書いたからです。

しかも、それは全く事実ではありませんでした。

彼は言いました。

「ブラナム兄弟、祈って神にその新聞社を焼き尽くしてもらったらどうです？」

私は驚いて言いました。

「兄弟、それは違います。」

彼は言いました。

「今の時代に必要なのは、もう少し“エリヤ”のような信仰ですよ!

エリヤなら天から火を降らせたでしょう？」

私は穏やかに答えました。

「兄弟、それは神が示されたときだけでした。

自分の意志で火を呼んだものではありません。」

彼は反論しました。

「いや、エリヤは大胆に出て行って、神を証明せよと叫んだではないですか。」

私は言いました。

「いいえ、神が最初に彼に示されたのです。」

エリヤは祭壇を整え、水を注ぎ、そしてこう祈りました——

『主よ、あなたの御言葉に従って、私はこれを行いました。』

その時、火が天から降ったのです。

まず、神が示され、それから御業が起こるのです。」

28 さて、まず第一に——神の御言葉はこう言っています。

「イエス・キリストはカルバリーの十字架で、すでにあなたを癒された。」

それが真理です。

主はあなたの罪のために傷つけられ、

その打たれた傷によって、あなたは癒されたのです。

(録音が途切れる)

今、あなたは私に「それを見える証拠で示せ」と言いたいでしょう。

けれども見えなくても、感じなくても、

私は確かに主の臨在を“感じている”のです。

人間の体には五感があります。

見る・聞く・味わう・嗅ぐ・触れる——それだけです。

けれども神を知るのは、この五感ではありません。

神は目には見えませんが、信仰によって感じられるのです。

信仰は見えないものを、

まるで見えるもののように確信させる力です。

29 信仰とは何でしょうか？それは第六感です。

五感が肉体を支配しますが、

信仰は魂の領域に属します。

信仰と不信——それが魂の二つの感覚です。

信仰に満たされる時、それは視覚と同じくらい確かな現実になります。

もしあなたが「このシャツは白い」と見て信じるように、

「イエス・キリストがカルバリーで私を癒された」と信じるなら、

あなたはその瞬間に癒されています。

聖書は言います。

「信仰とは、望んでいる事柄を保証し、

見えない事実を確信することである。」(ヘブル11:1)

信仰とは「感じること」ではなく「信じること」です。

ですから、何も感じなくても構いません。

ただ信じなさい。

30 どうか、「信じているふり」ではなく、本当に信じてください。

私は今夜、心から天の父に感謝します。

御言葉と御力、そして御霊の賜物をもって、

主が今もご自身を現してくださることを。

主は昨日も今日も、そして永遠に変わらないお方です。

——頭を垂れて祈りましょう。

天の父よ、今夜、聖霊を大いなる力でお下してください。

御言葉をすべての場所で確認してください。

この会堂にいる病める者が皆、

歩き、跳び、神を賛美しながらここを出られますように。

どうかこの町に、そして国中に、

古き良きリバイバルの火をもう一度お起こしてください。

イエスが再び来られることを、私たちは信じています。

今夜ここに罪人がいるなら、どうか救いを受け、

キリストを個人的な救い主として受け入れますように。

愛する御子イエスが今夜も私たちと共におられ、

その御業とするしを現してくださいますように。

主の御名によって祈ります。アーメン。

31 (録音が途切れる)

どうか、できる限り祈ってください。

あなたを助けることができるのは神だけです。

私は長く語りました。

さあ、静かに心をひとつにしてハミングしましょう。

ただ信じなさい、ただ信じなさい。

すべてのことが可能です、信じるだけです。

ただ信じなさい、ただ信じなさい。

(録音が途切れる)——頭痛

32 その夜、小さな赤ん坊が連れてこられました。

てんかんを患い、発作の最中でした。

私は「皆さん、どうか頭を下げてください」と言いました。

しかし、会場の後方に、反抗的な霊があるのを感じました。

そこには約2万8千人が集まっていました。

その抵抗の中心には、一人の牧師と彼の教会員たちがいました。

私は案内の方に言いました。

「その牧師に、どうか頭を下げて祈ってもらおうよう伝えてください。」

しかし戻ってきた案内人は言いました。

「彼は『ここは公の礼拝の場だ』と言って、拒みました。」

私は言いました。

「先生、それはあなたの権利です。けれども、私は責任を負いません。」

そして祈りました。

「天の父よ、罪のない者が罪ある者のために苦しまないようにしてください。

この幼子を癒してください。」

すると赤ん坊の発作はすぐに止まりました。

母親は感謝しながら抱き上げ、歩き去りました。

ところがその直後、後方からざわめきが起こりました。

あの牧師とその一団が——その場でてんかんの発作に襲われたのです。

33 もし確かめたいなら、ジョーンズボロ(アーカンソー州)の

「ザ・ブレスド・オールド・バイブル・アワー・タバナクル」の

リチャード・T・リード兄弟に手紙を書いてみてください。

あの時、グループ全体がてんかんを患っており、今でも発作を起こす者がいます。

私は今ここで語っていることのいくつかを、政府の記録や公式の報告書で証明できます。

FBIの捜査官や政府の職員たちが実際に集会に来て、

それを観察し、記録として残したのです。

皆さん、これは「教会ごっこ」ではありません。

どうか、敬虔な心で臨んでください。

主の臨在の前に、静まり、恐れをもって信じてください。

34 さて、少しお話ししましょう……(録音の切れ目)

今夜、あなたは主イエスがこの建物の中におられると信じますか？

そして、あなたを癒すことがおできになると信じますか？

(「ええ」)——そうですね。

あなたが見たり聞いたりしているこれらのことを、

神の真実として信じますか？

これはあなたが初めて出席する集会ですか？

(「いいえ」)——ああ、以前も来たことがありますね。

ミシガン州フリントの集会にもいらしたのですか？そうですか。

……(聴衆の声、録音不明)なるほど。

さて、神だけがあなたを助けることができます。

あなたはご自分で「心臓の病」を抱えているとお話しになりましたね。

それは本当です。

しかし、もしかすると主は、あなたの信仰を励ますために、

他のことも語ってくださるかもしれません。

——あなたは、私が神のしもべ(預言者)であることを信じますか？

(「はい」)ありがとうございます。私は謙遜にそう申し上げます。

主が私にこう言われました：

「もしあなたが人々にあなたを信じさせ、

祈るときに真実であるならば、

その時、わざは起こるであろう。」

あなたは牧師でもありますね？

(「はい、先生」)そうでしたか。

そして、最近、海外から帰ってきたばかりではありませんか？

(「はい、イギリスから戻ったばかりです」)

神があなたを祝福されますように。

さあ、信じてください。

あなたの心臓の病は癒されました。

主の祝福を。主があなたと共におられます。

あなたは良くなるでしょう。

会衆の皆さん——

「神に感謝します」と言いましょう。

35 今は静まって、全員が心を合わせて信じてください。

(録音の切れ目)

——そう、それは真実だと信じますね？

あなたは今、誰かのことを思っていますね。

そうです、その誰かのことで心配している。

あなたの赤ちゃんのことですね？(「はい」)

あの横たわっている小さな男の子——

ただ、神を信じなさい。

あなたが信じるなら、神は必ずなさいます。

……女性をお連れください。

こんばんは、姉妹。

心から信じますか？

(「はい」)——ええ、私はあなたが真実な信仰を持つ方だと感じます。

そのような心は、確かに神の御心を動かすのです。

あなたの体には病がありますね。

血液の状態が悪く、貧血症です。そうですね？(「はい」)

それに加えて喘息もありますね？(「はい」)

さらに——その赤ちゃんのことです。

医者が見ておられますね？(「はい」)

あの子も病んでいます。

実のところ、あなたよりも重い病です。

赤ちゃんも貧血で、さらに**脱腸(ヘルニア)**があります。

医者は頭を振って、「もう手の施しようがない」と言いましたね？

(「はい」)

では今——神があなたがた二人を癒してくださると信じますか？

(「はい」)

主イエスよ、この愛しい母と子に憐れみをお与えください。

あなたの打たれた傷によって、

今、二人が癒されますように。

サタンよ、イエス・キリストの御名によって命じる——

この母子から出て行け。

アーメン。

姉妹、あなたを祝福します。

そして、この赤ちゃんをも祝福します。

主イエス・キリストの御名によって。

信じてください。あなたは癒されました。

赤ちゃんも癒されました。

「主イエス・キリストに感謝します」と言いましょう。

36 今この会場にいるすべての人は、

ただちに信じるべき時です。

この紙に印刷された「神の天使」の写真——

それは今、全世界で科学的にも証明されています。

その同じ天の使いが、

今この会衆の中におられます。

私のそば、ほんの数フィートのところにおられます。  
裁きの日に、あなたがたは知るでしょう。  
私が今言っていることが真実であったと。  
彼は今、ここにおられ、  
彼を信じるすべての人を癒すことがおできになります。  
主イエス・キリストを信じなさい。  
彼があなたを癒されたと信じなさい。  
神を信じなさい。神はすべてをご存知です。  
——あの赤ちゃんと共に癒された女性はどこにいますか？  
ああ、そこですね。  
私はあなたの上に主の影が留まるのを見ました。  
……そう、あなたも心臓の病を患っていましたね。  
もう席に戻りなさい。主があなたを祝福されます。  
信仰を持ちなさい。  
信じる者には、すべてのことが可能です。

37 こんばんは、若い人。

あなたは胃の病気がありますね？（「はい、先生」）  
それは寄生虫のようなもので、胃の中に入り込み、痛みを起こしています。  
私にも同じ経験がありました。  
しかし主イエスが私を癒してくださいました。  
そして、彼はあなたも癒してくださいます。  
あなたはここまで来るのに苦労しましたね。  
ヒッチハイクをして来たのではありませんか？（「はい」）  
そう、私はあなたが道路を歩く幻を見ました。  
あなたは広い平原のある地域——  
そう、西部の方から来ましたね？（「はい、先生」）  
さあ、家に帰りなさい。  
あなたは元気になり、再び普通の生活を送るでしょう。  
あなたの信仰があなたを救いました。  
神があなたを祝福されますように。  
「神に感謝します」と言いましょ。う。  
主イエスを信じなさい。  
彼は死からよみがえり、今も生きて働いておられます。

同じイエスが、今ここにおられるのです。

- 38 死からよみがえられた同じ主イエスが、  
今も私たちと共におられます。

思い出してください——

復活の朝、イエスはエマオへの道で弟子たちに出会いました。

彼らは一日中、主と語り合いました。

その夜、彼らが食卓に着いたとき、

主がパンを裂かれるその仕草で、

彼らの目が開かれ、「主だ!」と悟りました。

主は今も、同じように私たちのそばを歩いておられます。

事故から救われたとき、

病から立ち上がったとき、

お金が尽きたときに誰かが食料を届けてくれた——

あのすべての瞬間に、主はおられました。

彼は今も生きておられるのです。

アーメン。

- 39 さあ、来なさい、若者。

神を信じ、信頼しなさい。

少し話をしましょう。

あなたが見たものは真実だと信じますか? (「はい」)

私の霊があなたの霊に触れるとき、

病の影が見えます——糖尿病ですね? (「はい」)

そして、あなたは救い主としてのイエス・キリストを必要としています。

(「はい」)

今夜、魂と体の両方に「血の transfusion (輸血)」を受けませんか?

——イエスの血による贖いです。

今、主をあなたの救い主として受け入れますか?

(「はい」)

主の前に立っていると信じますか?

(「はい」)

では、この会衆に向かって証してください。

「私は今、イエス・キリストを私の救い主として受け入れました」と。

……主よ、この青年の罪をすべて赦してください。

彼を癒し、心と体を新しくしてください。

彼を御国へ迎えてください。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

さあ、喜びながら行きなさい。

あなたの罪は赦され、体も癒されました。

良い教会に通い、キリストのために生きなさい。

神があなたを祝福されますように。

40 次の方をお連れください。

姉妹よ、心を尽くして信じますか？

今、あなたの前におられるのは、

人ではなく超自然の主イエスご自身です。

その方の御姿は、この紙に撮影されました。

……少し脇でお話ししてもいいですか？

(録音の切れ目)

——その幻は聴衆の前では語れないものでした。

神だけがご存じのことです。

(「はい」)

彼女は真実を証し、手を挙げました。

神と彼女以外、誰も知らない事柄です。

さあ、近づきなさい。

私が祈るとき、神が答えてくださると信じますか？

天の父よ、

この若い女性に憐れみをお与えください。

彼女の病を癒し、若い命をお守りください。

主イエスの約束——

「信じる者にはこのしるしが伴う。

病人に手を置けば、彼らは癒される。」

その御言葉を今ここで思い起こします。

あなたの御使いが告げたように、

誠実に祈り、人々が信じるなら、

祈りの前に何ものも立ちをだかることはありません。

主よ、あなたは今も生きておられます。

この姉妹を癒し、祝福してください。

イエス・キリストの御名によって。アーメン。

——私は信じます。あなたは癒されました。

主があなたと共におられます。

41 「主に感謝します」と言いましょう。

背中痛みから解放されたいですか？

主がそれをなさると信じますか？

(「はい」)

では祈ります。

父よ、憐れみをお与えください。

イエス・キリストの御名によってこの女性を癒してください。

死からキリストをよみがえらせたその力で、

この苦しみの霊を取り除いてください。

アーメン。

あなたは今、癒されました。

しばらくの間、少し体調を崩すかもしれません。

それは癒しが働いているしるしです。

その時こそ、神に感謝しなさい。

「私たちに勝利を与えてくださった神に賛美を」と言いましょう。

42 さあ、次の姉妹を。

……(母と息子)

息子さんは記憶を失う発作に悩んでいますね？

(「はい」)

お母さんは心臓が悪く、神経症にも苦しんでいます。

(「はい」)

そうです、二人とも正しい。

さあ、主イエスの御名によって行きなさい。

あなたがた二人とも癒されました。

……若い姉妹、あなたも信じますか？

(「はい」)

耳が聞こえづらいのですね？

主イエスよ、この姉妹に憐れみをお与えください。

邪悪な霊を取り除き、聴力を回復させてください。

イエス・キリストの御名によって命じます。アーメン。

—どうですか?聞こえますか?(「はい」)

理解できますか?(「はい」)

それなら癒されました。

聾の霊は去りました。

喜びながら家に帰りなさい。

「神に感謝します」と言きましょう。

43 さあ、お嬢さん。心から信じますか?

もし主イエスが、あなたの何が悪いのかを語られるとしたら、ブラナム兄弟を神のしもべとして信じますか?(「はい」)

あなたは日曜学校に行くのが好きですか?

なんて愛らしい、小さくて優しい女の子でしょう。

この時代にあっても、どうか主イエスに仕えていけるようにね。

あなたは長い間、腎臓の病気で苦しんできましたね?(「はい」)

神があなたを祝福されます。さあ、こちらへいらっしゃい。

—主イエスよ、この愛しい小さな娘を、どうか憐れんでください。

この状態を御覧になり、悪しき霊を追い払い、癒しをお与えください。

私はこの子の癒しを、イエス・キリストの御名によって祝福いたします。アーメン。

さあ、ハニー、敵は強く抵抗しましたが、あなたは必ず元気になります。

恐れなくて、主イエスを愛し続けなさい。神があなたを完全に癒してくださいます。

「主に感謝します!」と言きましょう。

—さて、姉妹。あなたは椅子に座ったままで信じますか?心から?

長いあいだ女性の病に苦しんできましたね。

さあ、今すぐ主イエスを信じなさい。

そうすれば、その病から解放されます。

神があなたを祝福されますように。アーメン。

こちらへいらっしゃい。

行かれる前に、あなたの手に触れさせてください。

—主なる神よ、どうかこの姉妹を憐れみ、イエスの御名によって癒してください。アーメン。

主があなたを祝福されますように、姉妹。

「主に感謝します!」

44 今、信じるなら—もう疑わないでください。

さあ、こちらへ来なさい。

さきほどの女性に「婦人の病」と言ったとき、不思議に思いませんでしたか?

実は、あなたも同じ状態なのです。

ですから、今すぐ神を賛美しなさい。

「主よ、私の癒しを感謝します」と言っ

て。「主イエスをほめたたえます！」

……お嬢さん、どう思いますか？

恐れなくて大丈夫です。これはあなたを傷つけるものではなく、癒すものです。

私を見てください。

私を神のしもべとして信じますか？（「はい」）

あなたは信仰のあるクリスチャンですね。

けれども、あなたは**結核(TB)**という深刻な病を抱えています。

それは世界で三番目に人の命を奪う病です。

でも、恐れなくてください。主イエスはあなたを完全に癒すことができになります。

お母さん、心配しないで。すべては大丈夫です。

——天の父よ、この思春期の少女を憐れんでください。

医者にも見抜けないこの悪しきものを取り除いてください。

主よ、あなたはその正体をご存じです。

イエス・キリストの御名によって命じます。

この少女からその霊が出て行きますように。

そして私はこの姉妹を癒しのために祝福します。

イエス・キリストの御名によって。アーメン。

神があなたを祝福されます、姉妹。

疑わずに、喜びのうちに帰りなさい。あなたは癒されました。

信仰を持ちなさい。

45 さあ、お母さん、次はあなたです。

あなたの病は心臓の病——世界で最も命を奪う病です。

息苦しく、横になると特に悪化しますね。

胸が締めつけられるようで、めまいや気を失うこともある。そうでしょう？

あなたの人生には、悲しみや苦しみが多くありました。

何度も手術を受け、涙を流してきましたね？（「はい」）

私はあなたの心を読んでいるのではありません。

しかし、主があなたのことを教えてくださっています。

——主なる神よ、この姉妹の信仰に応えてください。

しもべの力が弱まってゆく中で、どうか憐れみをもって彼女を癒してください。

今夜この場から出るとき、完全に元気にされますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

神があなたを祝福されます、姉妹。

喜びながら帰りなさい。神に感謝しなさい。あなたは癒されました。

ああ、なんという恵みでしょう！

ただ、信じるだけでよいのです。

46 さあ、兄弟よ、こちらへ来てください。

神を信じなさい。心を静め、敬虔な思いで。

あなたは牧師ですね？（「はい」）

胃の病がありますね。そして隣にいる方——あなたは脱腸を患っていますね？（「はい」）

——主なる神よ、あなたのしもべを祝福してください。

彼らが家に帰るとき、健康に戻りますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

神があなたを祝福されます、兄弟。

さあ、もう神経を煩わすことなく、何でも食べなさい。

それは“働きの疲れ”からくる一時的な緊張にすぎません。

あなたは癒されました。信じて進みなさい。

47 姉妹、あなたも信じますか？

あなたの胆のうの病、そして体の弱さ——神はすべてをご存じです。

隣に座っておられるのはご主人ですね？

（「はい」）そうだと思います。

では、二人で手を挙げてこう言いましょう。

「キリストにあって、私は癒しを受け入れます。」

神があなたがたを祝福されます。

そして、あちらにいる婦人——あなたも女性の病を患っていますね？

今、立ち上がって「私は癒しを受け入れます」と宣言しなさい。

神があなたを祝福されます。

……このあたりに、腎臓の病をもつ子どもがいますね。

主があなたを祝福されます。

そのそばに、けいれんを起こしている少女も見えます。

お母さん、それはあなたのお子さんですね？

手を置いて祈りなさい。神が癒されます。

48 さあ、立ちなさい、兄弟。あなたは癒されました。

——全能の神、命の源であられる主よ。

どうか今夜、あなたの民に祝福をお与えください。

イエス・キリストの御名によって、この会場にいるすべての人々を癒してください。

(静まり返る会場)

あなたに尋ねます。

もし、まだキリストを救い主として受け入れていない方がいるなら、

今、心から願いませんか？

「私はイエス・キリストを救い主として受け入れます。

彼が死からよみがえられたと信じます。」——そう告白したい方。

手を挙げてください。

神があなたを祝福されます、姉妹。

神があなたを祝福されます、青年。

神があなたを祝福されます、あちらの方。

今がその時です。

聖霊が私に「祭壇に呼びかけよ」と語られました。

私は従わねばなりません。

49 キリストを個人的な救い主として受け入れたい方、

今、立ち上がってください。

若いご夫婦、神があなたがたを祝福されます。

姉妹も、青年も、あちらにいる方も——神が皆さんを祝福されます。

私の愛する兄弟姉妹よ、私は真実を語っています。

この写真に写る神の御使いは、今もこの壇上におられます。

彼が私に命じられました——

「今、この時、祭壇への招きをしなさい。」

もしかすると、これが誰かにとって最後のチャンスかもしれません。

私はわかりません。

しかし、聖霊は確かに語られたのです。

——父よ、今立ち上がっている人々の罪を赦してください。

その罪をキリストの血の下に置いてください。

聖霊よ、疑いを信仰へと変え、

その心を新しくしてください。

憐れみの露が、ひとりひとりの魂に降り注ぎますように。

イエス・キリストの御名によって。アーメン。

50 今、立っているすべての方々——

神があなたの罪を赦してくださったと信じるなら、

手を挙げてこう言いましょう。

「私は今、キリストを私の救い主として受け入れます。」

神があなたを祝福されます、姉妹。

神が子どもたちを祝福されます。

今、聖霊のバプテスマを受けたい方は立ち上がってください。

まだ受けたことのない方も、渴いている方も。

心から信じるなら——

主はあなたに聖霊のバプテスマをお与えになります。

(録音の切れ目)

求めている方々は、今すぐテントに向かいましょう。

敬虔な思いで、主の臨在のもとに来なさい。

他の方々は、頭を下げ、静かに祈ってください。

アーメン。



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7